

第1回大分市公共下水道事業経営評価委員会 会議要旨

日 時：平成25年5月15日（水） 10時00分～11時40分

場 所：大分市役所議会棟3階 第5委員会室

出席者：委員 高見 博之、田中 拓治、村松 政幸、岩崎 美紀、小野 ひさえ、
工藤 勢津子（計6名）

事務局 下水道部長 中 真雄、下水道部次長 伊藤 憲亮
下水道経営企画課長 杉崎 悟、参事 佐藤 景樹、参事補 田崎 伸二、
参事補 横川 幸一、参事補 産谷 喜八郎、参事補 橋本 陽嗣
下水道営業課長 福山 圭三郎、参事補 清水 誉之
下水道建設課長 清水 洋治、参事補 姫野 和長
下水道施設課長 衛藤 亥太見、参事補 安東 政男
参事補 平野 栄治（計14名）

1. 議事

(1) 平成25年度予算について

事務局から配布資料に基づいて説明を行った。

○主な意見

【委員】 資本的収支の受益者負担金が割合として1.5%になっているが、整備が進んでいくとこの割合は増えるのか。

【事務局】 潤沢に工事費があつて整備を進めていくことができれば、この受益者負担金の額も増えるが、経営の健全化に向けて事業費自体も縮小しているので、ほぼ横ばいから若干少なくなる状況で推移していくと考えている。

【委員】 弁天水資源再生センターに1系列増設するということだが、施設整備のための用地は新たに取得するのか。

【事務局】 弁天水資源再生センターは10系列の水処理施設を整備するための用地を確保している。現在は既に5系列を整備しているが、今回は高層の駅ビル開発等により昼間の流入水量が極端に増えるため、さらに1系列増設する計画である。

(2) 公共下水道の計画変更について

事務局から配布資料に基づいて説明を行った。

○主な意見

【委員】 ここでの計画変更は、この委員会で検討している経営計画とは別のもの

ということでしょうか。

【事務局】 経営には全く関係がないということはないが、下水道事業を推進する上では、法手続き等も必要であり、大分駅ビルの開発等への対応も含めた検討の中で計画の変更等もしている。

【委員】 この計画は平成 47 年度までと期間が長いが、市の計画とは整合性が取れているのか。

【事務局】 平成 28 年度までの市の総合計画とは、目標人口を 48 万人とすることで整合性を取っている。それ以降は下水道独自の計画となるが、平成 47 年度までの推計で無駄のない計画を定めようとしたものである。

【委員】 今日の資料ではないのだが、大分市の公共下水道の整備率の現状と将来の見通しを知らせるのが一番大切なのではないかと。

【事務局】 使用料改定の特集号に、23 年度末の普及率が 58.6%と記載している。直近では、中期経営計画の中で平成 29 年度の普及率の目標を 61.9%と掲げ公表している。

【委員】 下水道部は公共下水道に関するものの他に一般の浄化槽等の汚水も所管しているのか。

【事務局】 汚水全般で言うと、浄化槽の方も所管している。農業集落排水は生産基盤課が所管をしている。

【委員】 今後の人口が期待するほど増えないとなると、水資源再生センターで必要な準備をした先行投資部分は活かされることなく、全く必要のない投資に終わるといった恐れはないのか。そうなったときに、転用等の有効利用も考える必要があるのではないかと。

【事務局】 現時点では施設を造りすぎて無駄になっていることはない。今後、津波や地震対策、系列の増設等への対応を考えると、無駄な土地はほとんどない状況だと考えている。ただ、今の指摘のような視点というのは非常に大切なので、そういったことがないようにしていきたいと考えている。